

Q. レーザーの危険性は？

A. 2000 lmタイプは日本工業規格のクラス1、
1000 lmタイプは日本工業規格のクラス2に適合した製品です。
通常、目の嫌悪反応によって目の保護がなされるクラスです。
使用中はレンズを覗かないようにしてください。

	クラス	危険評価の概要
2000 lmタイプ	クラス1	設計上本質的に安全である。
	クラス1M	低出力(302.5~4000nmの波長)。 ビーム内観察状態も含め、一定条件の下では安全である。 ビーム内で光学的手段を用いて観察すると、危険となる場合がある。
1000 lmタイプ	クラス2	可視光で低出力(400~700nmの波長)。 直接ビーム内観察状態も含め、通常目の嫌悪反応によって目の保護がなされる。
	クラス2M	可視光で低出力(400~700nmの波長)。 通常目の嫌悪反応によって目の保護がなされる。ビーム内で光学的手段を用いて観察すると、危険となる場合がある。
	クラス3R	可視光ではクラス2の5倍以下(400~700nmの波長)、可視光以外ではクラス1の5倍以下(302.5nm以上の波長)の出力。 直接ビーム内観察状態では、危険となる場合がある。
	クラス3B	0.5W以下の出力。直接ビーム内観察をすると危険である。 ただし拡散反射による焦点を結ばないパルスレーザー放射の観察は危険ではなく、ある条件下では安全に観察できる。
	クラス4	高出力。危険な拡散反射を生じる可能性がある。 これらは皮膚障害をもたらし、また、火災を発生させる危険がある。